



# は『全ての学習のベース』を 育てるためのツールです

『日本語』が  
『使えることば』となるように  
全ての小学校でMIMに取り組んでいます

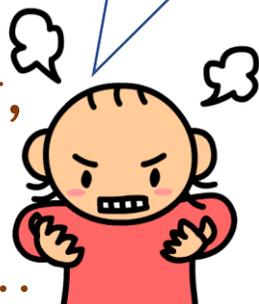


ほとんどの子ども達は  
「勉強が楽しみ」といって学校に入ってきます

『わかった。できた。またやりたい。』  
を保障するために

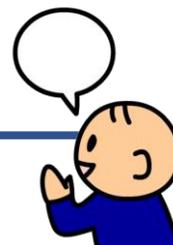
わからないん  
だってば！

1学期から『読み書きのつまずき』を見つけ、  
支えてあげることが、学習のわかりにくさや  
漠然とした不安の軽減につながります

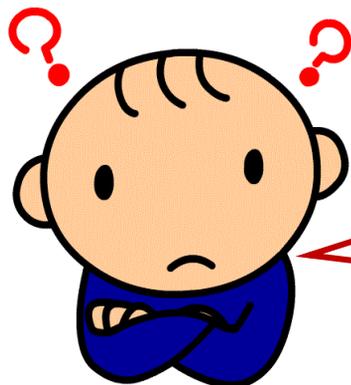


つまずきが、明らかになる前に……

学習の困難さから二次的な不適応や 問題行動を  
起こさせないために……



- ① わかりやすく → 動作化, 視覚化, 音声化
- ② たのしく → クイズ, ことば遊び, ゲーム
- ③ くりかえして → 同じやり方で, 少しを継続



保育園とは  
環境が大きく変わる  
小学校に入ると？



保育園の頃……



みんなと仲良く遊べる

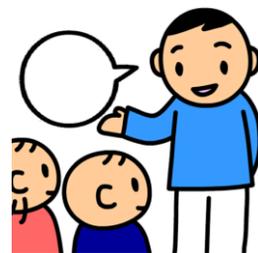


先生の話聞くことができる

給食をよく食べ、元気いっぱい

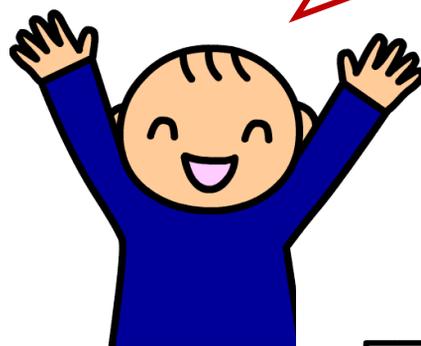


活動にも積極的に取り組んでいる

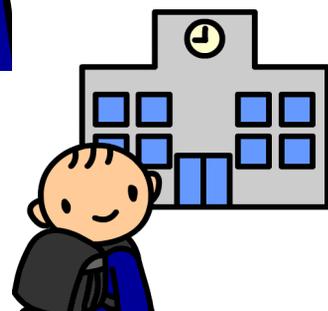
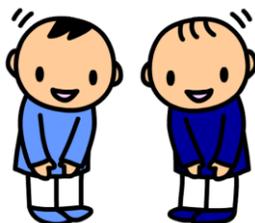


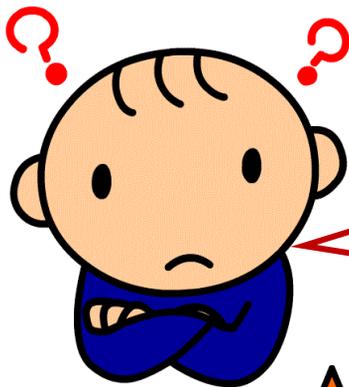
小学校で勉強するのが  
楽しみだな～♪

保育園では、特に困ることがなく  
充実した園生活を過ごしてきた

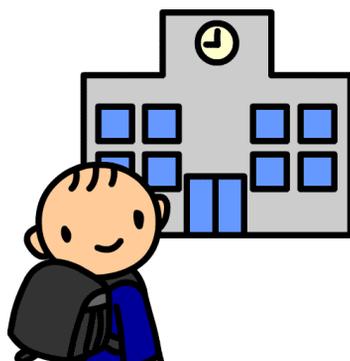


特別な支援や配慮が必要な子どもとして情報を引き継ぐことなく  
小学校へ



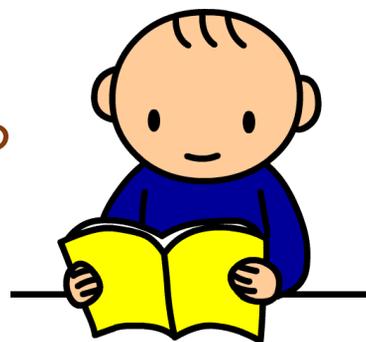
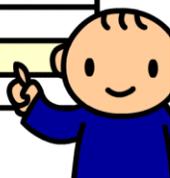


なぜ、MIMをやるの？  
国語じゃないの？



月 日 ( )	
1	● ● ● ●
2	● ● ● ●
3	● ● ● ●
4	● ● ● ●
5	● ● ● ●

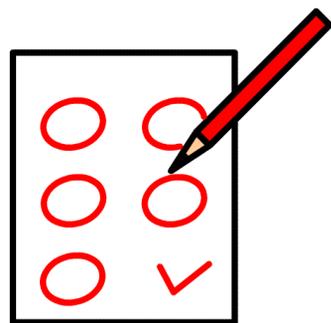
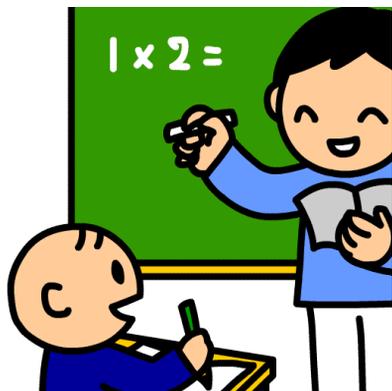
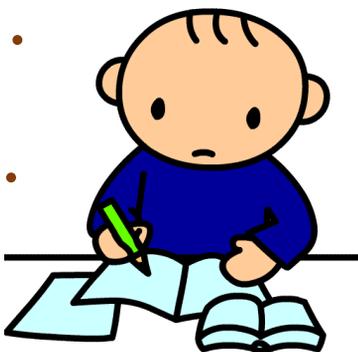
読む・書く勉強がはじまる



文字で書かれた掲示物が多くなる

読んで考える……

書いて考える……

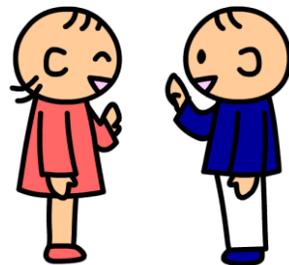


# 日本語

は自然に覚えるもの

と、思っていないですか？

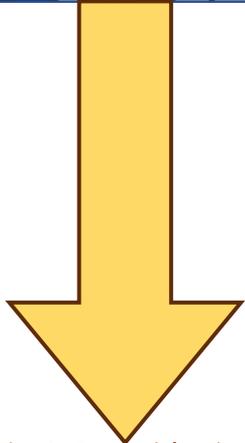
「日本語は  
わかって当たり前」  
になっている



# 国語

は教科として習うもの

「漢字」は 自然と覚えられないから  
教えてもらう



日本語は基本『1音に1文字が対応』している。  
英語に比べてわかりやすく、ほとんどの子ども達は  
教えなくても日常生活の中で馴染んでいってしまう

(イレギュラーなものが少ない) → 一部に存在する

- 
- ① 促音 (小さい「っ」) → 無音に1つの文字
  - ② 長音 (伸びる音) → 伸ばした音に1つの文字
  - ③ 拗音 (ねじれる音) → 1つの音に2つの文字
  - ④ 助詞 (くっ付きの「は, へ」) → 助詞の読み方
  - ⑤ 「ん」 (口形) → 次の音で口形が変わる

特殊なルールに馴染めない子がいる

中学では、  
英語でつまづく可能性があると言われている



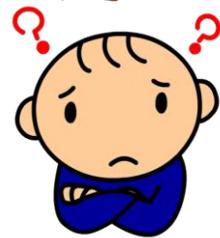
a b c d e f g ~♪



今までは……

つまずきが、明らかになってから  
特別支援が始まっていた

- やっても、わからない、できない の 積み重ね
- わかった! できた! の手ごたえが感じられない
- やる気、意欲が下がっていく
- 楽しみにしていた勉強が、苦痛になっていく



わからない

これからは……



つまずきが明らかになる前に、動く

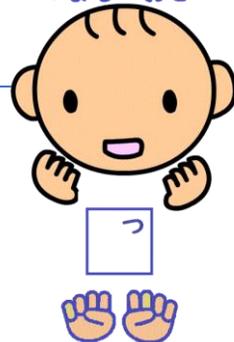
## 伊那市 読み書き支援事業

- 専門家でなくても、クラスの先生ができる支援
- ひらがなの読み書きの繰り返しから、始めましょう

ひらがな・カタカナがスラスラ言える、読める  
特殊音節の読み書きがスラスラできる

MIMを  
やろう!

つまる おと



ね



こ

通常のクラス

異なる学力層の集団

- どんなやり方でも覚えられる子がいる
- 1~2回だけでは覚えられない子がいる
- 音と文字を結びつける力の弱い子がいる
- 音と表記のルールが入りにくい子がいる
- 文字の形がとらえにくい子がいる
- 文に沿って目で追うことが難しい子がいる
- 文字を意味のまとまりでとらえることが難しい子がいる
- 文字と紙のコントラストで見にくい子がいる

## 専門家でなくても、クラスの先生ができる支援

・ひらがなの読み書きの繰り返しから、始めましょう

ひらがなやカタカナは、書く練習をして文字をスムーズに想起できるようになると音読成績も向上する（宇野ら 2015）。

### 50音表に沿ってひらがなを記入していく

書字の自動化を目指す → 流暢さの獲得につながる

- ・ 1～3年生は2分を目安に、
- ・ 4年生以上は1分半を目安に

### 50音表をスピーディーに書くことができる

- ・ はじめに語音を想起し、その音に対応する仮名文字を想起して書くことができる。

### 50音表を活用する良さ

50音表は、視空間的に構成されており、視覚的な認知能力に弱さのある子ども達にとって視覚、視空間的な情報に加えて、同時に音のつながりとしてとらえることができます。

文字と音を同時に練習するのではなく、はじめに音としての50音表の配列を覚え、次に文字配列との結びつきを強めることによって、音の配列が手がかりとなって文字配列を引き出すことができるようになってきます。

3年生での辞書調べ、ローマ字の学習に生かされます。

# MIMのワークシート

## MIM-PM ① 絵に合う言葉を選ぼう

- 絵に合う正しい表記が瞬時に選べるか？
- (正確な文字言語の認知)

## MIM-PM ② 3つに分けよう

- 言葉のまとまりを瞬時に見つけられるか？
- (語のまとまりの認知)
- 語彙力との関わりが大きい
- 知っている言葉があると, 見つけやすい



読みの苦手な子は  
「これ嫌い!」と言ったり  
すぐ「疲れた~」ということ  
が多いので, 要チェック!

## 同じプリントを繰り返す良さ

慣れることが, 読み書きへのハードルを下げる。  
語のかたまりが見つけやすくなり, かたまりでとらえる感覚をつかめる。

9歳までに適切な教育が受けられなかった子供の場合, そのうちの実に70%が読みのつまずきを生涯持ち続ける可能性があることが報告されている。

(National Center for Learning Disabilities, 2004)